

令和7年度第1回岐阜県先端科学技術体験センター 指定管理評価員会議議事要旨

○日 時：令和7年9月3日（水） 10：30～12：30

○場 所：岐阜県先端科学技術体験センター会議室

○議 題：令和6年度の事業報告について

○出席者：

【評価員】〔定数：4名〕

岡田 優子 （御嵩町立伏見小学校 校長）

高橋 信一 （岐阜協立大学 経営学部 教授）

三宅 崇 （岐阜大学 教育学部 教授）

宮地 江里奈（瑞浪市PTA連合会 瑞浪市立土岐小学校 PTA家庭教育部 部長）

【指定管理者】〔トータルメディア中電クラビス科学サービス〕

加藤 譲 （(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部 副部長）

森井 映美子（(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部
チーフディレクター）

五ヶ山 淳 （中電クラビス(株) 展示館サービス部 部長）

水谷 幸次 （中電クラビス(株) 展示館サービス部 副長）

桜井 正之 （岐阜県先端科学技術体験センター 館長）

安江 進 （岐阜県先端科学技術体験センター 副館長兼総務課長）

田代 学 （岐阜県先端科学技術体験センター 教育普及課長）

和田 沙欧里（岐阜県先端科学技術体験センター 利用促進課長）

【事務局】〔岐阜県観光文化スポーツ部文化伝承課〕

市岡 美咲 （文化伝承課長）

清水 信博 （文化伝承課 教育文化係長）

馬田 勝利 （文化伝承課 教育文化係主任）

○議事概要

【質疑応答】

高橋評価員：従前のSNSに加え、テレビも活用するなど、以前よりもメディアを活用し、効果が出ている点は素晴らしい。

じゃらんの「子どもの学びになりそうな科学館・博物館ランキング」で第9位に選ばれたが、反響はあったか。

桜井館長：夏休み後半には、東京からじゃらんを見て来たという方が何名かいらっしゃった。じゃらんの効果があったと思う。

高橋評価員：出張ワークショップを50校に制限しているとのことだが、どのように学校を選定しているのか。

安江副館長：基本的に先着で受け付けている。昨年度は丁度50校で収まったが、締切り後に問い合わせのあった数校に対しては、お断りしている。

高橋評価員：締切後に希望校が出た場合、不公平が生じる可能性があるので、あらかじめ「先

着50校」「50校を超えたら、制限する場合があります。」のような表示をした方がよいと思う。

桜井館長：出張ワークショップ1校につき2名の職員が出張するのだが、当館での受け入れや職員数も不足を考慮すると、50校が精一杯という状況である点をご理解いただきたい。

岡田評価員：カガークの放送がテレビ愛知だが、私の家では見ることができない。岐阜放送で見られるようになるとういのだが。

安江副館長：先方に相談してみる。

三宅評価員：連続講座について、昔はもう少し重点を置いていたような気がする。スタッフの方々も専門性の高い方がいるので、こうした講座をぜひ大事にしてほしい。

安江副館長：昨年度は3回しか実施できなかったが、今年度は木組みの科学や、新たに折り紙を使った連続講座を予定している。我々も連続講座は非常に重要と考えており、これまでとは違ったジャンルの講座を実施することで、利用者の興味の範囲を広げていけたらと考えている。

三宅評価員：「いつでも どこでも サイエンスワールド」について、具体的にどの事業が該当するのか。

安江副館長：講座のオンライン活用や YouTube の動画が該当する。当館に来ることができなくても、サイエンスワールドの体験ができるものである。以前はオンラインを活用した工作をやっていたが、事前の準備や当日のやり取りが煩雑だったため、現在はほとんど実施していない。

三宅評価員：利用者からの意見があった場合、回答を公開したりするのか。

安江副館長：重大なものについては、ホームページに公表することがある。以前、トイレを流さない利用者がいるので、トイレを流して欲しいという声があり、トイレに「流して下さい」という旨の張り紙をしたところ、意見をいただいた方から「対応していただき、ありがとうございます」とアンケートで返ってきたことがある。ちゃんと見ていただいているんだなというのを感じた。

三宅評価員：対応することも大事だが、そうしたやり取りを公開することも、利用者との関係性を構築する上で大事だと思う。

【講評】

岡田評価員：子どもたちのことを第一に考えながら、常に魅力的な科学館であり続けることは大変だと思うが、日々研鑽を積み、改善・工夫を繰り返しながら運営を行っている点は、とても誠実な経営姿勢であると感じる。学校現場としては、出張ワークショップの件数をもっと増やしてもらえるとありがたい。

学校の来館数が減っているという話があったが、一番の要因は、バスが手配できないことだと思う。財源が豊かで、補助金が出る自治体ならバスで来館できるが、そうでない自治体は来館が困難である。また、学校行事や授業数が削減される中で、1日かけて来館することができないなど、様々な要因があると思う。

また、理科の授業のサポートをやっていただけるとありがたい。「いつでも どこでも サイエンスワールド」いうキャッチフレーズは学校現場にはあまり浸透していない。理科の授業にオンラインで参加していただくというのができたらよいと思う。また、理科の授業支援の動画をもっと作ってくれと、授業の中で、発展

的な内容として紹介するといった活用ができると思う。

宮地評価員：一番上の子が中学生で、その子が小学校に上がる前はよく利用させてもらっていたが、下の子の時はなかなか来れていなかった。下の子の小学校のチラシを見て、クリームソーダキャンドル作りをやってみたかったが、満員で参加できず、その後も電話することはなかった。先ほどウェブで予約できると聞いたので、これなら下の子を連れてきたいなと思った。
子供が大きくなり、理科の興味がなくなっているように感じるので、中学生でも楽しめるようなイベントがあれば、上の子も誘ってみようと思う。

高橋評価員：施設見学で子供たちが楽しく実験していたのを見て、子供たちのあるべき姿だと改めて思った。また、高学年や大人でも楽しめるワークショップを工夫して行っており、質の高いものをどんどん提供できている点に驚いた。
またテレビ番組など、色んな形で広報活動が広がっており、その効果が出ている点を高く評価したい。この調子でいけば、今年度か来年度あたりにはコロナ禍前の状況に戻るのではないかと期待している。ぜひ頑張ってください。

三宅評価員：以前の会議で聞いたものが、更にパワーアップしているのを毎回感じて、着実に深められているなと感じた。蛍のイベントの話があったが、体験を重視した施設で生物分野を取り扱うのは難しいと思うが、生物関連のイベントがあったことは、生物を専門とする私としては嬉しく思った。